

ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくりイベント

ともに生きる

誰もが住みやすいまちに



..... はまってけらいん かだってけらいん

AIDS文化フォーラム in 陸前高田 

報告書 2017

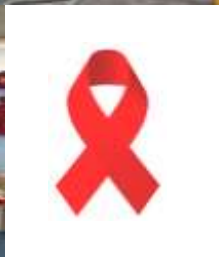
前夜「はまかだ」はPTAと合同

恒例の「竹林」での2次会
オーナーの菅沼さんがこの1週間後の12月10日に急逝
ご冥福をお祈りいたします



設営

アバッセパブリックスペース



新しい図書館もHIV/AIDS特別展



目次

1. 前夜「はまかだ」はPTAと合同・設営・新しい図書館もHIV/AIDS特別展 ……P 2
2. 目次・AIDS文化フォーラムとは・「文化」の2文字・広がるAIDS文化フォーラム・
はまってけらいん かだってけらいん運動・ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり ……P 3
3. オープニング・AIDS文化フォーラム in 陸前高田の歩 ……P 4
4. HIV/AIDSとLGBTのいまを考える ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの視点から ……P 6
5. 今どきのネットトラブル デートDV、LINE、Facebook、Twitterのトラブルの背景 ……P 8
6. HIV/AIDSクイズ ……P 10
7. LIVE みんなで歌おう コラボコンサート 伝承～あなたと私でつなぐ未来～ ……P 12
8. 展示コーナー ……P 14
9. 会場風景・閉会の言葉 ……P16
10. 打ち上げはまかだ・新聞記事 ……P17

● AIDS文化フォーラムとは？

1994年、横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手による、市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO、NPO、学生、PWA/H、行政、個人はもちろんのこと、様々な分野で活動している人たちが集まり、発表・展示・交流を行っています。横浜では2017年に24回目を迎えました。2005年に陸前高田市で始まったHIV/AIDSのイベントが2013年にAIDS文化フォーラム in 陸前高田として復活。

● 「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシュアリティ、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育…私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く関わっているのです。

● 広がるAIDS文化フォーラム

横浜で始まったAIDS文化フォーラムは京都、陸前高田へと広がり、2014年に佐賀に、2017年に名古屋に広がりました。これは単にHIV/AIDSの問題に向き合うだけではなく、HIV/AIDSを通して生きること、偏見や差別に関することなどを、様々な角度から考える場になっているからだと考えています。

● はまってけらいん かだってけらいん運動

陸前高田市保健医療福祉未来図会議では、市民一人ひとりが様々なストレスと上手につき合うために、日常生活（買い物、農作業、病院など）のあらゆる場面、様々なイベント（地域の行事や祭など）などの機会にはまって（集まって）かだる（語る）ことで、お互いの経験や情報を共有し、少しずつ余裕を身につけて行くことを目指した運動を展開しています。

● ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり

陸前高田市では、一人ひとりが、自分自身の、そして相手の、障がい、年齢、セクシュアリティ、病気、国籍といった個性を意識することのない、誰もが暮らしやすい、住みやすいまちづくりを進めています。

いろいろメモ

会場：アバッセパブリックスペース
来場者数：約300名 + 通行人多数
ボランティアスタッフ：30名
天候：晴れ



今年も秘忍者ジミー・ハットリくと、
陸前高田市ゆめ大使たかたのゆめちゃんとのコラボが実現

オープニング AIDS文化フォーラム in 陸前高田の歩み

出演者 陸前高田青年会議所 高橋 勇樹
 岩手医科大学 佐々木亮平
 陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室 紳也

AIDS文化フォーラム in 陸前高田の歩みを確認。2000年、久慈保健所に在籍していた佐々木亮平保健師は、国立公衆衛生院でのHIV/AIDSの研修を受け、HIV/AIDSの予防啓発と診療に携わっていた岩室紳也医師に出会う。

2005年陸前高田青年会議所、陸前高田市、大船渡保健所と「人と人のつながり」を考えるきっかけとして、若者たちを巻き込んだAIDSに関するイベントを開催。

2011年、東日本大震災をきっかけに、佐々木も岩室も定期的に陸前高田入りをすることに。2011年8月のAIDS文化フォーラム in 横浜のオープニングで高橋勇樹理事長の講演と金野兄弟による「ぼくらにできること」を披露。

2012年に災害FMで柴田見初代陸前高田青年会議所エイズイベント担当委員長とフォトジャーナリストの安田菜津紀さんとのトークでイベント復活へ。



2005年に陸前高田青年会議所でHIV/AIDSの勉強会後、性に敏感な若い世代向けのイベントの開催に



「愛」、「性」のメッセージを高校生からライブ形式で発信



若者たちの本音を聞く中で今やテーマソングになった「ぼくらにできること」が誕生



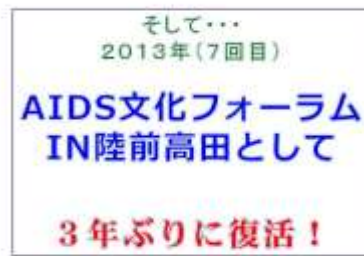
○震災前、6年連続、6回開催!

年(学期)	国のテーマ	東北地区でのテーマ
2005(01)	エイズ、あなたに「動かない」と思っていますか?	南三陸の中心で愛をうたう～あなたと HIV-AIDSの「つながり」を考えよう～
2006(01)	Living Together ～一緒に今できること～	STOP! AIDS! ～大切な人と生きるために～
2007(01)	Living Together ～大切な人を守るために～	STOP! AIDS! in 陸前高田 ～レッドリボン、繋がりますか～
2008(01)	Living Together ～ちよつとの愛からはじまる事～	STOP! AIDS! in 陸前高田 ～ほくらにできること～
2009(01)	Living Together ～いま、何をすれば正しいのか考えて～	STOP! AIDS! in KESEN ～REDNにほくらにできること～
2010(02)	願けよう ～Keep the promise Keep your life～	STOP! AIDS! in KESEN ～伝えよう レッドリボン～

いろいろな人と人の「つながり」を当初から意識



HIV/AIDSのつながりと震災が縁で陸前高田でつながる (市長はコンドームの達人の孫弟子)



2017年が11回目

災害FMでAIDS文化フォーラム in 陸前高田としてエイズイベントが復活

第1回は2013年11月23日に陸前高田市立第一中学校の体育館で開催。夜回り先生の水谷修さんや、2008年に講演をしてくれた北山翔子さんも駆けつけてくれました。



HIV/AIDSとLGBTの今を考える

ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの視点から

出演者 NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス 代表理事 高久陽介
陸前高田市 市長 戸羽 太
コーディネーター 陸前高田市ノーマライゼーション大使 陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー
/ヘルスプロモーション推進センター (オフィスいわむろ) 代表 岩室紳也

HIV/AIDSとの出会い

高久: 私はHIVに感染している当事者です。ゲイ、男性同性愛者の私にとっても、20代の頃はHIV/AIDSは他人ごとでした。初恋は中2の時のイケメン男子。周囲が男女で恋愛をしている中で自分は違うとは思いましたが、自分の中では違和感はありませんでした。高校、大学に行くようになって世間との違いに気づきました。大学4年の時に初めてゲイのコミュニティとの交流がありました。

2001年にHIVに感染していることを知りました。検査のきっかけは、好きになった人がHIVを持っていて、「検査を受けなければ自分のこととして考えられない」と感じました。確かにそれまでセックスをした相手が最近検査を受けたからとか、お酒を飲んだ勢いでとかの理由でコンドームを付けないこともありました。実際に陽性とわかってみると、自分が

思い込んでいた「HIV陽性者」の**イメージと、実際に自分が当事者になって感じたことに大きなギャップ**がありました。

戸羽: アメリカに3年間いたのですが、1991年にマジックジョンソンがHIVに感染していることをカミングアウトしたことは大きなショックでした。しかし、自分が好きだったスターがカミングアウトしたことで一気に身近な問題になりました。陸前高田青年会議所のメンバーだった2005年にエイズを考える勉強会に参加し、コンドームの達人の岩室先生の弟子の佐々木亮平さんに出会いましたので、私は岩室先生の孫弟子ということになります。

岩室: 1990年代初頭からHIV/AIDSの普及啓発にかかわり、今はHIV/AIDS患者さんの診療もしています。HIV/AIDSを予防するにはノーセックスかコンドームの使用しかないことを強調し続けていたら、いつの間にか「コンドームの達人」と呼ばれるようになっていました。

ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり

戸羽: 陸前高田のまちづくりで一番大事なコンセプトは「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」です。世の中は偏見と先入観に満ち溢れ、障がい者、高齢者、LGBTの実態を知らないのに偏見を持っている人が少なくありません。どのような個性を持っていても、その人なりに、その人が素のままに過ごせるまちづくりを目指しています。

「手を差し伸べてください」ではなく、**垣根を取り払うことが大事**。ミライロ社長で車椅子の垣内俊哉さんは「階段を上るのが不得意な人と得意な人がいる。得手不得手は誰にでもある。環境が障がいを意識させる」と言っていました。

ノーマライゼーションを意識するようになったのがアメリカでの経験でした。上半身しかなく、車いすで生活をしている人が自分を隠さず、明るく暮らしていました。高久さんはHIVを持っていること以外は普通の人。岩室先生が素のまま、性やコンドームのことを伝え、発信し続けていただきたいと思い、ノーマライゼーション大使をお願いしました。

高久: 子どもの時に北海道から東京に転校したら「アイヌ」といじめられたこともありましたが、でも、**いろんなつながりがあったことで、自分を、他の人を俯瞰して見られる**ようになっていました。LGBTが話題になっていますが、僕はゲイのことしかわかりません。感染がわかった2001年頃、ゲイの世界でもHIVに感染していることをカミングアウトできない雰囲気がありました。一方で、少ない数でも同じ病気の人が知り合いにいたことで、自分の感染を受け入れられやすかったのも事実です。HIVを持っているわれわれは、普通に日本で暮らし、薬を飲んでいただけです。HIVを持っていて「壁」を感じるのは他の病気になった時。歯医者に普通に見てもらえない、子どもを産みたいと思っても、どこでも受け入れてもらえるわけではなく、無駄な排除が少なからずあります。



ともに生きる ～誰もが住みやすいまちに～

「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」というテーマがあったから陸前高田は来やすかったのも事実です。障がいを持っている人と接すると学びになります。よく「HIVの人にはどのような配慮が必要？」と聞かれますが、**普通がいい**です。HIVに感染している人で、出先で血液透析をしなければならない人もいますが、実はそのような施設を探す際に、都会よりも地方の方が見つけやすいという現実があります。地方の方がお互いの顔が見え、ノーマライゼーションが進んでいるのかもしれませんが。ゲイも高齢化で地元に戻るが増えているので、ノーマライゼーションはすごく大事だと思っています。

岩室：HIVに感染していても治療をしていれば、セックスでも相手にほぼうつすことはないことがわかってきました。自宅で分娩した人もいます。

LGBTについて

高久：みんなの権利を獲得するため「LGBT」という枠ができましたが、枠にこだわる必要はありません。私も便宜上LGBTという言葉を使っていますが、ゲイもトランスジェンダーに学んでいます。20人に1人はゲイ。でも、相思相愛は簡単には言えない。でも、ノーマライゼーションのまちでは言えるのかなと思います。**ゲイだからいつも男のことを考えているわけではない**(笑)。中高生の頃は趣味とかに没頭していました。男性とセックスをしていますが、自分がゲイとは思っていない人もいます。グラデュエーションがあります。

戸羽：マイアミではビーチで男同士で手をつないでいる環境が当たり前でした。今はLGBTも当たり前のように話せるようになりました。相思相愛、恋愛が成就できる、**それぞれの個性を理解し尊重し合えるまちにしたい**です。

岩室：HIV/AIDSに関わるまでは、ゲイとかは受け入れられませんでした。これからの医療者は杓子定規に枠を決めるのではなく、もっとセクシュアリティを知るべきですね。



いろんなつながりが大事

高久：きれいなアバッセがここに存在するには、いろんな経験、人と人のつながり、背景がありますよね。ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりは我々にとってもありがたい取り組みで、**人の痛みがわかる陸前高田市を感じます**。日本でHIVを持って暮らしている人は25,000人。JaNP+ではHIVを持っている人たちを派遣するスピーカー事業を通して、HIVの人を見て、話を聞いて、身近にいる人と思ってもらえたらと考えています。

戸羽：マジックジョンソンのHIV感染が分かった時にショックでしたが、自分が応援していた人なので自分で調べていました。「壁」は自分が作っていて、当事者と関われば「壁」、「勘違い」が取り払われます。一人暮らしをサポートすることと「自立しなさい」は別。障がい者に健常者と同じようになることを求めてはいけなし、津波の被災者も社会的弱者です。いろんな人との交流を通して、理解が深まります。マイノリティと、いろんな人と交わる、「**友達になろう作戦**」が大事。

岩室：熊谷晋一郎先生の「**自立は依存先を増やすこと**」という言葉を改めて考えていました。いろんな人たちと交わる機会を作り続ける大切さを皆さんも訴えておられる。ゲイの友達に「どうすればゲイへの理解が広まるのか」と質問したら、「知るより慣れろ」と言われました。今回、ホールではなく、アバッセからの公開ラジオ放送とし、災害FMの方で再放送をしたり、HP (<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/hamakadafm.html>) で聞けるようにしたのは狙いがありました。

ホールだと行きたくても、「何？、LGBTやHIV/AIDSに興味があるの？」と思われるかもしれませんが、アバッセだと、通しながら「あの人も自分と同じゲイなんだ」とかを何気なく体験できることを狙ってのことでした。高久さんと市長の率直なご発言で、多くの方にメッセージが届いたと思います。ありがとうございました。

(文責：岩室紳也)



今どきのネットトラブル

デートDV、LINE、Facebook、Twitterのトラブルの背景

出演者 ウィメンズクリニック・かみむら 院長 上村 茂仁 (58)
 岩手県大船渡保健所 保健師 山本 詩織 (25)
 岩手医科大学 助教 佐々木亮平 (42)
 若者代表 (フロアから) 金子 祐樹 (23) 三浦 結香 (24)



ネットトラブルはコミュニケーションの問題／LINE、Facebook、Twitterの違いや特徴、つきあい方

上村：若いみなさんは正しい知識、問題を解決する力も持っているのですが、ふとした人間関係の中で寂しさや辛さがあつたときに、避妊のない性行為などに至ってしまっています。デートDVも、SNSが悪い、ネットでのコミュニケーションに問題があるなど言われていますが、どのように子どもたちに使われているのか、どこに問題があるのか等について、大人だけでなく若いみなさんと共に考えていきたいと思ひます。

三浦：LINE、Facebook、Twitter、Instagram全部やっていますが、中でもLINEはなくてはならないツールで、電話番号を知っていればお互いにつながることができる**簡単な連絡手段**です。E-mailと異なり、トーク履歴が残り、リアルタイムで言葉を交わすことができるので便利です。Twitterは、**日々のなんでもないような出来事などをみんなに知ってもらい、見てもらう場で、自分からの情報発信**に使っています。

金子：LINEは**リア友 (=本当の友達、リアルな友達、お互い顔を知っている仲)**に使っています。少し顔をあわせた程度では使っていません。Twitterは楽しかったことなど、一言日記のような形で使っています。

上村：Twitterは、つぶやきで、それに共感してくれる人がいたら嬉しいなという感じですね。

金子：Facebook は実名なので完全に個人用で、Twitterは匿名なので誰とでもつながれる感じです。

山本：LINEだけで連絡などが済むので、それ以外のSNSはしていません。どこか怖さもあります。

辛いな、寂しいなという「タイミング」が人にはある

上村：何か辛いな、寂しいなという時にSNSで優しく声をかけてもらったりすると、打ち解けてあつという間に心を許してしまい、会ってみたいなという期待感が生まれてしまう時の対応はどうしていますか。

三浦：寂しいなとか、居場所がないなと思っているときに声をかけてもらえると、**自分を認めてもらえるというか、リア友でなくとも安心できると思うときがあります**。逆にリア友の前でつらいとか、しんどいとか何回も言えないので明るく振る舞って、そうした思いを、Twitterなどを使って話すこともあります。

上村：親や友だちの中では明るくてまじめという子ほど、辛いな、苦しいなという自分を見せられないでいます。ネットの世界では自分を知られていないので、心の弱さや辛さを見せることができ、そこに共感する人と本音で話せ、会っても大丈夫という気持ちに自然になるのだと思ひます。では、会ってもいいのでは？

三浦：その優しさは表面だけかも知れないと考えると恐いことなので、すぐには会わないと思ひます。

金子：会うとなれば、これまでのTwitterの**履歴**などを見て、人が大勢いるカフェなどになると思ひます。

「会わない」とわからない

上村：本当に安心できる人でないとLINEには移行しない。その基準は**会って、直接確認した上で、LINEを教えるかどうかを決める**。

佐々木：TwitterとLINEの間に「リアル」がある？

金子：**会わないとわからない**し始まらない。

上村：大人たちは会ってはいけないと言ひますよね。

三浦：アカウント名やつぶやき内容、フォロー状況、自分が見られてて、人のは見ていない人＝誰でもいいと思ひている人？と判断。**オーラでおおよそわかります**。





SNSの良い面も考えてみよう

三浦：SNSをやっていないとつながれない、省かれてしまう。やっていないと自分にとってよくないことを流されているのではないかという不安もあります。

上村：このことは普通の社会でもあることですよね。

佐々木：確かに不安に思うこともありますが、今日のテーマのように**共に生きる、お互いさまという思いで、実社会ではできる**ような気がします。ですがネットの世界には感情があるのかなとか、文字から思いとかオーラが感じられるのかなと思うところもあります。

三浦：だから見張っていないと怖いということもあり疲れます。それでも踏ん切りがついて離れることができる人もいれば、できない人もいます。片手に持っていないと不安・・・ということが普通になっている人もいます。



SNSがないとつながれない時代

佐々木：みなさんが中学生、高校生だった頃はどうかだったのでしょうか。



山本：SNSは今ほどなく、ネットゲームや部活のプロフィールサイトから学校外の人とつながり、出身校などわかると親近感が湧いて会いたいなと思ったりしていました。メールはアドレスが必要なので、リア友としか交換していませんでした。

金子：高校生の頃から携帯は持っていましたが、知らない人とはつながらないようにしていました。ただ、友達の友達となると、不安もありましたが仲間がいるし、つながっていったのかなと思います。



上村：SNSを除いて会おう、みんなで語ろうという大人の考えは、今の若者に即していません。LINEの**グループでつながって良い**。大人はもっと**子どもたちに合わせた居場所とか、コミュニケーションの取り方などを伝えていく**。将来、使うものだというので、小学校低学年から教えていくことが大切です。

SNSの規制が大事ではない

三浦：先日より話題となっている「死にたい」とつぶやくことに対して規制をすることについて、その「思い」を出すこともできなくなるので、**思いまでなくすような規制はすべきではない**と思っています。

佐々木：死にたいくらい辛いんだという**思いを話せる「場」があることが大事**ということですね。

上村：死にたいと思うことが悪いことではない。県の条例で夜21時以降はスマホを親に預けましょうという取り組みもありますが、若者たちは辛い思いを発信するのは夜なんです。**なくす、止めさせるという考えは捨て**、どうやって解決するか、どう対応するかという姿勢で進めることが重要です。最終的にはリアルな友だちになります。これからはよい面にも目を向けていくことも大切です。

金子：**ネットのメリットはあって当たり前で、ないのが考えられない**ですね。中学生であれば、今はもうスマホ＝ゲーム機のようにもなっているので、夜22時くらいまでなどのルールは必要かも知れません。

SNSを通じたつながる力、共に生きる

上村：恋愛するとどうしても束縛してしまう、ヤキモチも焼く、約束もある、でもその約束が守れなくなってくると、相手に不安を感じさせてしまうこともあり、暴力などで守らせようとする関係性をデートDVといいますが、普段、三浦さんたちはどんな活動をされていますか。



三浦：いい恋愛わるい恋愛より、**自分を大切に**しようというメッセージを届けています。まずは自分を好きに思えることが大切と伝えていきます。

山本：**自分のことを好きになることがやはり大事**で、自信にもつながります。

上村：**自己肯定感はいろんな人とつながることで生まれ**、自分の立ち位置が見えてきます。そのつながるツールの一つにネットを入れて構わないと思います。SNSを通じて**つながる力、共に生きる**ということをこれからは一緒に考えていくことをご理解いただけたかと思います。



HIV/AIDSクイズ

HIV/AIDSの最新事情を皆さんがどれだけ正確に答えられるか、ジミーハットリ君と共にチャレンジしました。皆さんもあらためてチャレンジしてみてください。(出題：日本エイズ学会認定医 岩室紳也)


解説

問① HIV/AIDS予防で一番大事なのは正しい知識である？

-
- ×
- どちらともいえない

知識は役に立たない？

あれだけアフリカで、まわりの人たちがどんどんエイズで死んで行く現状を目にしていながら、まさか彼がHIVに感染しているとは、疑いもしなかった。



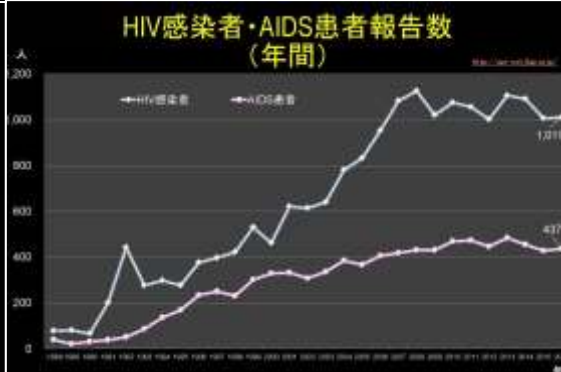
【北山翔子・神様くれたHIV、紀伊國屋書店、p35、2010、東京】

陸前高田市に2度来てくださったっている北山翔子さんも、「まさか彼が感染しているとは」と思ったそうです。

他人ごと意識が原因

問② 日本ではHIV/AIDSは？

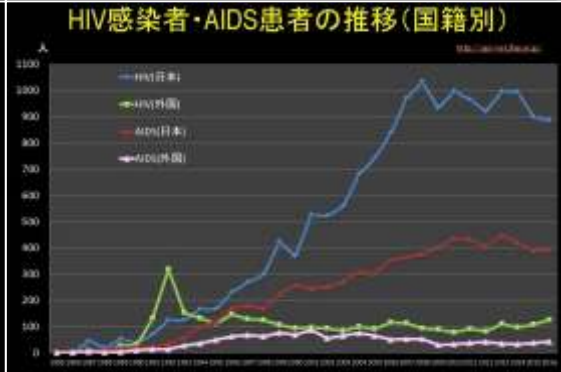
- 増えている
- 横ばい
- 減っている



日本ではここ数年間、HIV/AIDSはともに横俵の状態です。報道では細かいところをとらえて「増えている」「減らない」と言っていますが、なぜ横ばいになったかが大事です。

問③ HIV/AIDSは外国人が多い？

-
- ×
- どちらともいえない



今や日本で感染していることが判明する人のほとんどが日本人ですが、まだまだ外国の病気と思っている人も少なからずいます。

問④ HIV感染は若者に多い？

-
- ×
- どちらともいえない



「若者」の定義は難しいのですが、20代、30代が多い一方で、60歳以上になってから感染が判明する人も少なくありません。

問⑤ HIV/AIDSは同性愛者に多い？

-
- ×
- どちらともいえない



正確には「同性愛者」ではなく、「男性同性性的接触者(MSM)」が圧倒的に多くなっています。しかし、その人たちの中でも横ばいかや減少傾向にあることに学びたいものです。

小中高の教科書にもHIV/AIDSのことがきちんと記載されています。しかし、いろんな事情から、教科書には「同性愛」や「LGBT」についての記載がありません。陸前高田市はノーマライゼーションという言葉がいないまちづくりを通して、理解を広めようとしています。

問⑥ HIV感染に初期症状がある？

- 1. 必ずある
- 2. あることもある
- 3. ない



自分ではちゃんと知識はあると思っている人も、意外とこの質問を間違えるようです。いま、医者の中では、感染してすぐの急性期に診断するように教育しています。

問⑦ HIV感染症は治療すればAIDSで死亡することはない？

- 1. ○
- 2. ×
- 3. どちらとも言えない

HIVに感染してもちゃんと治療をすれば天寿を全うできる。

確かにこのように伝えることが多いのですが、医療の現場では「いきなりAIDS」、すなわち、AIDSを発症して初めて医療機関でHIVの検査を受ける人が相変わらずいらっしゃいます。AIDS発症といっても、比較的治りやすい日和見感染症もあれば、治りにくい悪性腫瘍もあります。合併した病気によっては、そのまま亡くなることも少なくありません。

問⑧ 抗HIV療法をするとHIVを完全に除去できる？

- 1. ○
- 2. ×
- 3. どちらとも言えない

HIVに効く薬が増え、いまや「HIV感染症は慢性疾患」とも言われています。しかし、「慢性疾患」ということは、長く付き合わなければならない病気ということで、決して「治癒できる疾患」ではない、今のところ「一度感染したHIVを体内から完全に除去できない」ということです。さらに、薬を飲み忘れてしまうと、HIVがその薬が効かない「耐性ウイルス」に変異することもあり、きちんと薬を飲み続けなければならない病気です。

問⑨ LGBTの割合は？

- 1. 10,000人に1人
- 2. 1,000人に1人
- 3. 100人に1人以上

ゲイの割合？

1 / 20～50人

様々な調査がありますが、LGBT、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの方はクラスに一人はいるというのが常識になっています。

問⑩ MSM(男性同性間性的接触)でHIV/AIDSが減った理由は？

- 1. 正しい知識の普及
- 2. 教科書に書かれているから
- 3. 当事者の活動の影響

当事者活動の結果、自分のセクシュアリティを認め、自己肯定感が高まると、自らの健康を守ろうとする意識が芽生え、結果としてHIV/AIDSは横ばいから減少に転じています。



LIVE みんなで歌おう コラボコンサート

伝承～あなたと私でつなぐ未来～

出演者 まっと (※陸前高田市米崎町出身)

SUMITA音楽サークル音蔵

一般社団法人陸前高田青年会議所 理事長 高橋勇樹



みんなで歌おうコラボコンサートは、住田町を拠点に活動しているSUMITA音楽サークル「音蔵」に所属している「ばやしくん」の曲でスタートしました。

「ふるさと」、「今日もあなたが好きでした」、「ひとりも見捨てない」の3曲を披露していただきました。

音蔵がAIDS文化フォーラムに出演するのは今年が初めてでしたが、後述の楽曲「伝承～あなたと私でつなぐ未来～」を作成していただいたのがきっかけでした。

震災後の困難な状況の中、陸前高田市と住田町は、互いに手を取り合って乗り越えてきました。そこから生まれた絆が、「伝承～あなたと私でつなぐ未来～」の作成と、今回のコンサートへの出演につながっています。



続いて登場したのは、米崎町出身のシンガーソングライターまっと君。

まっと君は、AIDS文化フォーラムの前身である「STOP! AIDS! in KESEN」の時代から、本イベントに協力いただいています。

AIDS文化フォーラムのテーマソング「僕らにできる事」でスタートし、中高生を中心に愛について応募いただいた詩を元に、まっと君に作成していただいた楽曲「ありがとう」、「夢」、「世界中が歌えば」の計4曲を披露していただきました。

合唱曲「伝承」の活用を

陸前高田J.C 楽譜や音源CDを寄贈

一般社団法人陸前高田青年会議所(高橋勇樹理事長)は19日、陸前高田市と住田町の両教育委員会に対し、合唱曲「伝承～あなたと私でつなぐ未来～」の楽譜と音源CDを寄贈した。東日本大震災の記憶を風化させずに伝え残していくこととまめた作品で、各学校などの活用に期待を込めた。

同会議所は今年3月、陸前高田市内で震災から6年、私たちが伝えるものは何か」をテーマに定例会を開いた。各メンバーは自身の体験を振り返り、未来に語り継ぐ言葉を探った。

その結果、今後伝えていくべきこととして「あなたがいるから私も生きていける。だから普段の日常を大切に過ごそう。あなたの命は皆の命。皆の命はあなたの命。だから守ろう自分を。それがあなた(皆、未来)の為に」と

詩の形にまとめた。さらにSUMITA音楽サークル音蔵(ねぐら)の協力を得て、合唱曲を作成。今年3日に同市のアパッセタカで開催した「AIDS文化フォーラムin陸前高田」で初めて披露した。

今回の寄贈は、次世代を担う子どもたちに広く歌い継いでもらおうと企画。「震災の記憶を風化させない一助」各学校などでの活用を期待を込めながら寄贈した高橋理事長(左)住田町役場



となること、同じ悲しみが二度と起きないよう」などの願いを込めている。

高橋理事長(40)らが両教育委員会を回り、趣旨を説明しながら寄贈。「何気ないメッセージだが、大切なことを伝えている。子どもたちに歌い継がれてほしい」と話していた。

東海新報
平成29年12月20日

伝承～あなたと私でつなぐ未来～

作詞 : 一般社団法人陸前高田青年会議所
SUMITA音楽サークル音蔵
作曲 : 畑中 大助

水平線の見える街 風の香り青い空
あなたと歩いた思い出 今もあの日のまま
ふるさと遠く離れても 明日が待ち遠しくて
私が帰るこの場所は 今も変わらないままに
春を運ぶ椿よ 想いをのせて
明日も十年後の未来も 夢を見せて
小道を駆け抜けた先の 通いなれたあの場所も
ともに過ごしたあの笑顔 胸に刻みつないでく
空を泳ぐかもめよ 想いをのせて
この手をとりあって 明日へ旅立とう
あなたがそこにいるから 私も生きていける
だから普段の日常を 大切に過ごそうよ
あなたの命はそうさ みんなの命だから
守ろう自分をそれが 私たちのため つなげよう
あなたがそこにいるから 私も生きていける
だから普段の日常を 大切に過ごそうよ
みんなの命はそうさ あなたの命だから
守ろう自分をそれが
あなた みんなのため つなぐ
それが私たちの 未来のため
あなたがいるから 私も生きていける
だから普段の日常を大切に過ごそう
あなたの命は皆の命
皆の命はあなたの命
だから守ろう自分を
それがあなた (皆/未来) の為

コンサートの最後は、楽曲「伝承～あなたと私でつなぐ未来～」を披露しました。

あなたがいるから私も生きていける
だから普段の日常を大切に過ごそう
あなたの命は皆の命
皆の命はあなたの命
だから守ろう自分を
それがあなた(皆/未来)の為

これは、陸前高田青年会議所が震災の記憶を風化させないために、次代へ「伝えていくべきこと」としてまとめたメッセージです。

このメッセージをもとに、SUMITA音楽サークル音蔵に協力をいただき作り上げた楽曲が「伝承～あなたと私でつなぐ未来～」です。

そして、このメッセージをまずは自分たちから発信しようということで、陸前高田青年会議所メンバー自身が会場でこの楽曲を歌い披露しました。

来場いただいた方には、歌詞を見ながら一緒に歌っていただいたり、曲に合わせて温かい手拍子を送っていただいたりと、会場にいた全員がひとつになって歌いあげることができました

なお、震災の記憶を風化させないために、この楽曲を歌い繋いでいただきたいとの思いから、陸前高田市と住田町の教育委員会を通じて、各小中学校へ楽曲のCDと楽譜を寄贈させていただきました。



展示コーナー

一般社団法人
陸前高田青年会議所



オリジナルTシャツ





岩手県大船渡保健所

全国AIDS文化フォーラム展（陸前高田・佐賀・横浜・京都）



会場風景・閉会の言葉



立ち見が出る盛況



総合司会 蒲生恵美さん



高木宏徳委員長



アバッセの外で勧誘



?



災害FM 金野由美子さん



閉会の言葉

一般社団法人陸前高田青年会議所
理事長 高橋勇樹



打ち上げ「はまかだ」

「ともに生きる」、「ともに創る」を
実感できたはまかだは新しい「俺っ家」で



FM音源は以下と→で
聞くことができます

陸前高田のいま 陸前高田災害FMサイト
佐々木亮平と岩室紳也の
はまってけらいん かだってけらいん

<http://heal.thpromotion.a.la9.jp/saigai/hamakadafm.html>



新聞記事

「普通」に接して

AIDS文化フォーラム

陸前高田市

運営委員会は、市と一般社団法人陸前高田青年会議所、県大船渡保健所、NPO法人市支援連絡協議会AidTAKATA（市災害FM）で構成され、フォーラムは毎年開催。今年も陸前高田災害FMの公開収録や、地元アーティストらによるコンサート、パネル展示などが行われた。このうち同FMのラジオ番組「はまってけらいん、かだってけらいん」の公開収録では、



高久さんは子どものころから自分が同性を好むという自覚を持っていない。普通にしてきたらいい」としか答えられない」と、周囲から「特別視」される違和感を語った。戸羽市長も「高齢者や障害者、さまざまなセクシャルティーマも、自分たちに何か特別に手を差し伸べてほしいというわけではない。必要なのは垣根を取っ払うことなのだ」と「ノーマライゼーション」の実現について思いを述べた。

高久さんは「ゲイと言ってもさまざま。自分がそうだと気付くタイミングも違うし、自覚を持ってない人もいる」といい、岩室さんも「杓子定規で線は引けないということへの理解が必要ですね」とうなずいた。会場には、「エイズに関して偏見を持っていない、エイズとともに生きる人々を差別しない」というメッセージを示す「レッドリボン」のツリーも展示。高久さんらによるトークセッション「高田町（電子新聞に別写真あり）」

いんの公開収録では、NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャパンプラス代表理事の高久陽介さんと、戸羽市長、ヘルスプロモーション推進センター代表の岩室紳也医師によるトークセッションを行った。高久さんは子どものころから自分が同性を好むという自覚を持っていない。普通にしてきたらいい」としか答えられない」と、周囲から「特別視」される違和感を語った。戸羽市長も「高齢者や障害者、さまざまなセクシャルティーマも、自分たちに何か特別に手を差し伸べてほしいというわけではない。必要なのは垣根を取っ払うことなのだ」と「ノーマライゼーション」の実現について思いを述べた。

東海新報
平成29年12月6日

来場者がレッドリボンを飾り付け、ツリーを完成させていた。

AIDS文化フォーラム in 佐賀(2018.5.26-27)

AIDS文化フォーラム in 横浜(2018.8.3-5)

AIDS文化フォーラム in 京都(2018.9.29-30)

AIDS文化フォーラム in 名古屋(2018.秋)

AIDS文化フォーラム in 陸前高田(2018.11.18)



AIDS文化フォーラム in 陸前高田

【主催】AIDS文化フォーラム in 陸前高田運営委員会

(一般社団法人陸前高田青年会議所・陸前高田市・岩手県大船渡保健所・特定非営利活動法人陸前高田市支援連絡協議会Aid TAKATA (陸前高田災害FM))

【後援】大船渡市、住田町、大船渡市教育委員会、陸前高田市教育委員会、住田町教育委員会、岩手県立高田病院、医療法人希望会希望ヶ丘病院、一般社団法人気仙医師会、公益社団法人岩手県看護協会大船渡支部、陸前高田市歯科医師団、気仙薬剤師会、(株)東海新報社、岩手日報社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、FMねまらいん、陸前高田グローバルキャンパス

【助成金】公益財団法人エイズ予防財団 (平成29年度エイズ予防財団助成事業)

♪ **Special Thanks** ♪ (会場協力) アバッセたかた (チラシ・報告書表紙デザイン) 母袋秀典

2017AIDS文化フォーラム in 陸前高田報告書

発行日 平成30年2月28日
編集 一般社団法人陸前高田青年会議所 (岩手県陸前高田市高田町字中田43番地2)
陸前高田市役所 (岩手県陸前高田市高田町字鳴石42番地5)
岩手県大船渡保健所 (岩手県大船渡市猪川町字前田6番地1)